

「御国が来ますように」 ～改名 あなたの名前～

マルコ 3:13～19

■ 素直な心で従う

私達は日々の生活の中で素直になれない出来事に直面します。その時、あなたはどちらを選びますか？神様に手を伸ばし、自分の心が変えられることを選ぶでしょうか、それとも頑なになって自分のやり方で生きるでしょうか。

聖書には人の生き様が書かれており、神様に従った人の生き方と従わなかった人の生き方の両方を見ることができます。イエス様を殺そうとしたパリサイ人達は心を頑なにし、神様に従うことができませんでした。聖書には「幼子のように素直になりなさい」と書かれています。心を頑なに自分の欲や在り方のように固執するのではなく、素直な心で神様に共に歩んでいきましょう。

■ あなたは何を持っていますか？

聖画にはアトリビュート（その人物を表す特徴や持物）というものがよく描かれます。「四人の賢人」の絵にも、弟子達が聖書や鍵など、その人の人生を象徴するアトリビュートとともに描かれています。人にはその人の生きたシンボルのようなものが生涯を通して出来てきます。あなたのアトリビュートは何でしょうか？

その絵の中には、剣を持って描かれている者もいました。武器としての剣で立ち向かってしまった彼の弱さは、後に御言葉の剣を持って戦うという意味へと変えられます。このように、神様は私達の弱点でさえ良いものに変えていくことができると教えられています。

■ 本来の姿に戻る

聖書は私達に罪を教え、私達を本来の姿に戻そうとします。また、全てのストーリーを通してバランスが大切であるということが教えられています。あなたの人生は本当にバランスを保っているのでしょうか。何かに偏っていないでしょうか。

聖書は罪が何であるかを教えますが、あなたが罪人であることを伝えたいのではありません。あなたが神様に愛されているということをお伝えしたいのです。しかし、私達は素晴らしく作られた本来の姿からだんだんと離れてしまいます。良くなりたくて願ひながら、してはいけないことをしてしまう。そんな弱さや罪に気付くように、聖書は私達にまず罪が何であるかを教えます。

あなたは自分の汚い部分を理解していますか？汚れは洗えば綺麗になります。大事なことは、その汚れの着いた部分を知ることです。聖書は、あなたは駄目だ・価値がないと言っているのではなく、あなたに着いた汚れ（罪）を取りなさいと言っているのです。

■ 呼びかけに喜んで応える

『さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに來た。(マルコ 3:13)』

『イエスが山に登り』ハル（山）とアーラー（登る）という言葉が使われており、ノアの箱舟（創 7:19）と天地創造（創 2:6）の箇所と同じ言語が使われています。登るという山は、神様が地上と海を分けられてできたものと同じです。そして、ノアの洪水の際に水が全てを覆った状態は、神が全てを統治するということを表しています。人々の罪の為に、神様は作られたものを洪水によって滅ぼされました。しかし、もう一度イエス様はその山に登り、神の権威によって統治するということが示されています。

そして、『ご自身が望む者たち』という言葉を選んで使われています。ハーフェーツ（望む）。この部分と同じ言語は、ヒビ人シェケムとヤコブの娘の婚礼の箇所（創 34:19）に出ています。ヒビ人はヤコブの血筋と異なり、割礼を受けていませんでした。そこで、割礼を受けて自分たちの部族に入るなら認めると言われた時、彼は喜んで受け入れてそれを行いました。この箇所と同じ言語が使われていることから、呼ばれた弟子達はイエス様の呼びかけに喜んで応えたことが分かります。人は一度失敗して、罪によって滅ぼされましたが、その中から神様が望む人は誰だったかという喜んで付いていこうとした人でした。

『呼び寄せられる』カーラー（呼ぶ）という意味で、「神は光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた。」（創 1:5）と同じ言語が使われています。神は選り分けて名づけ、あなたを呼んでいます。今までに失敗したことがあったとしても、神様はそれを用いて栄光に変えようとする方です。

『彼らはみもとに來た』ポー（来る、もたらす）。この部分は、神様に造られた生き物が人によって名づけられた（創 2:19）という箇所と同じ言語が使われています。名前をつける（役割を与える）権威は神様から与えられたものです。神様はあなたの過去の全ての罪を赦し、

あなたを呼び、望むものとして選ばれています。

■ 神様との約束

『そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。(マルコ 3:14～15)』

『十二人』シャーネム（二：権威ある者として、他と二分された者）、アーサル（十：十分の一をささげる）。ヤコブが十二の石を置いて、それを神の家と呼び、神様に十分の一をささげる約束をした（創 28:22）という箇所と同じ言語が使われています。「あなたに全てを与えて守る。あなたは十分の一を返しなさい」という神様と人との約束（契約）です。この箇所では、神の約束が成就し、イスラエルの神がイスラエルの家に帰ることを表しています。

『任命』というのは、マーナー（数える）という意味です。この言語は、神様がアブラハムに「あなたの子孫を地のちりのように増やす」（創 13:16）と言われた箇所と同じものが使われています。神様に従い、十分の一を捧げて付いていくと決断する者には、神様は祝福（任命）を与えられます。

『使徒、遣わす』シャーラハ（遣わす）（創 3:22）、ガーラシュ（追放する）（創 3:24）。アダムとイヴは罪を犯し、追放されます。同じ言葉を用いて悪霊を追い出すという意味で使われています。神様が本当に追い出したかったのは、アダムとイヴではなく、彼らを喰った悪魔でした。彼らが悔い改めれば、悪魔だけが出ていくはずでしたが、彼らは悪に生きてしまったためにエデンの園から出ていかなければならなくなったのです。しかし、神様を信じて手を伸ばした者、喜んで付いていった者は悪魔を追い出す権威が与えられ、あなたは神の家に住むようになると約束されています。

■ あなたの名前の意味

日野原先生の著書の中に、「真夜中に電話がかかってきたら」というコラムがあります。

夜中の十二時に電話が掛かってきた時、先生はこう答えられました。「つい先ほどまで起きて原稿を書いていたところですから、まったくご心配におよびません！」

なぜこのようにふるまえるのでしょうか？自分に与えられた名前を保つ方法は、自分のふるまいを相手の視点から見ることだと考えられているからです。

「自分のふるまいを相手の視点から振り返って見つめ直すことを習慣づけければ、やがて思いやりにじむ所作が美しく備わります。」と先生は言われています。

私達は、今までふさわしい生き方ではなかったかもしれませんが、ですが神様はあなたの名前を弟子達にしたのと同じ方法で呼ばれ、あなたも弟子だと任命されています。ずれたあなたの名前の意味を本来のものに作り変えようとしているのです。神様に呼ばれた時、心を頑なにしないようにしましょう。あなたが手を差し伸べれば、神様はその手を引き上げて下さいます。

最後に

神様は私達の過去の失敗や罪も全て知った上で私に付いてきなさいと言われます。私達は価値の無い者や罪人ではなく、罪を赦された者なのです。神様は私達の人生を良いものに作り変えて下さいます。そして、新しい契約（約束）を与えようとする時に、必ずあなたの名を呼ばれます。神様に呼ばれた時には心を頑なにせず、素直な心で付いていけるようにしましょう。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そしてあなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである（ヨハネ 15:16）」

（要約者：池田 優香）

（2022年 9月11日）